

スイス民間防衛
(Zivilverteidigungsbuch)

レジスタンス闘争
(Widerstandskampf)
pp.274-299

1969

ドイツ語版からの翻訳

民間 防衛

レジスタンス闘争

敵の計画に従ってスイスが屈服させられていたら、今や長期にわたりスイスは外国の支配下に置かれているだろう。おそらく、屈服すれば、我々は戦争から免れることすらできず、既にそうであったように、スイスは外国の軍隊間の衝突の戦場となるだろう。スイス国民は戦争の攻撃に対して脆弱になるだろう。スイスは、最初の不注意と、後の自己満足と優柔不断を、ひどく後悔することになる、国外からの解放や、その後の抵抗や蜂起の成功の見込みはごくわずかである。脆弱な国民は、自らの行動により、敵と世界からの敬意を失い、新たな独立を望めない。

しかし、スイスが第二戦争形態で強いままであれば、独立を維持できる可能性が最も高くなる。それにもかかわらず、軍事戦闘でスイスが屈服を強要された場合、スイスはその防衛を単独で実行するか否かにかかわらず、使えるあらゆる手段で戦うだろう。我々は国土の一部あるいは大部分が、一時的に敵に占領されることを想定しなければならない。しかし、これが起こる前に、わが国民は、利益に関連して、敵に最も多くの労働力と物資を犠牲にさせる戦いを行う。飛行場、道路、鉄道、工場、その他の重要な施設は使用できなくなる。敵はどこでも抵抗を受ける。わが国への侵入には多大なコストがかかると言われる。戦争の推移によって国が解放されるまで、限定された領域では防御態勢を取り、分散された拠点で抵抗し、軍隊の一部は持ちこたえる。

国際法
被占領国における住民の保護と権利
女性と若者
戦略と戦術
レジスタンス闘争
受動的抵抗
占領軍による不法行為があったときの行動
能動的抵抗
裏切り者に対する戦い
スパイ行為
敵の疲弊
妨害行為、暴力活動
公然たる抵抗
国の解放



すべての人は自己決定権を持っている。大国は、国連憲章でこの権利を明示的に認めている。したがって、すべての人々は、いかなる形態の外国による支配にも抵抗する権利を有する。自由への意志に触発され、あらゆる手段を使って抵抗闘争を戦うならば、長期的に抑圧されることはない。抵抗闘争は厳しい。罪のない人々が苦しみ、不必要な血が流されないように、慎重な計画と組織が必要である。

国際法は、占領地の民間人にある程度の保護を与えている。しかし、それはまた、レジスタンス闘争に一定の制限を設ける。問題は、人々が戦うことを許容されるかどうかではなく、戒厳令の保護を受ける権利を得るためには、どのようにしなければならないかである。義務を認めない者は、義務の対価である権利も剥奪される。敵は、人質の逮捕、国外追放、警察のテロ、集団的罰としての食糧の剥奪、罪のない人々への銃撃、住民の一部あるいは全体の絶滅など、国際法に反する行為を通じて、抵抗するという我々の意志を打ち破ろうとする。我々が敵にいかなる言い訳をしようとも、敵にとっては望むところである。あらゆる計画外の行動は、レジスタンス闘争の遂行にとって致命的である。

基本的に、レジスタンス闘争は、亡命政府やレジスタンス軍の指揮など、責任ある機関によって主導されなければならない。戦闘作戦は抵抗運動のメンバーのみが実行できる。そのような運動は：

- 責任を持つ長を持ち、
- 遠方から認識できる徽章を付け、
- 公然武器を携行し、
- 戦争の法規と慣例を遵守する

これ以外の住民は、戦闘を控えなければならないが、他の方法でレジスタンスをサポートできる。当分の間、実際の戦闘作戦を実行するには、少数ではあるが十分に訓練された人員が必要であることを知っておく必要がある。占領とレジスタンス闘争の期間中、国民は基本的に3つのグループに分けることができます。

特別なレジスタンス訓練を受けていない人々のほとんどは、戦闘や暴力行為に関与しない。しかし、占領軍には少しも譲歩せず、和解の試みを拒否する。

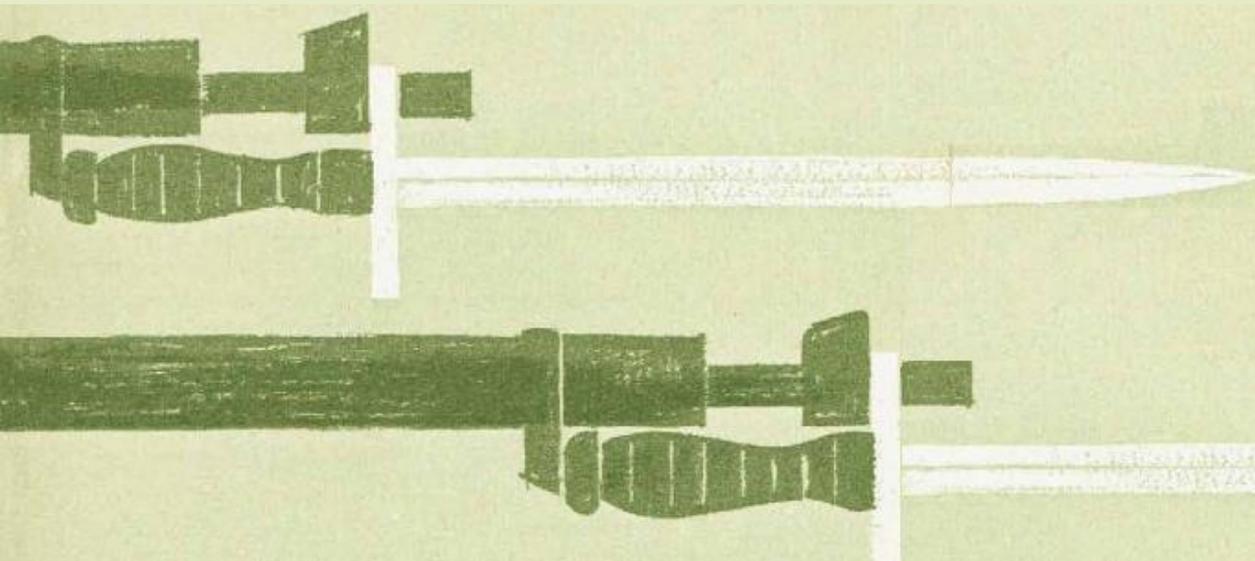
特にレジスタンスを戦える人々のグループは、積極的に抵抗運動を戦う。少数の訓練されたレジスタンス戦闘員が、敵の占領軍や警察力の大編成を抑えることができることを経験は示すところである。

これらのグループの間には、暴力行為に参加しないが、情報収集や連絡や物資供給や支援やを通じてレジスタンス戦闘員の暴力行為を可能にする重要な人々のグループがいる。このように働く人は、自己責任で行い、自分自身と家族を敵対的な報復にさらしていることを認識しておく必要がある。

これらの人々はすべて、自分の判断で行動するのではなく、状況の概要を把握し、いつ、どこでどの行動が賢明で効果的であるかを知っているレジスタンス指揮官による明確な命令とよく考えられた計画に従って行動する。

しかし、敵が個人の身体や生命や名誉を不法に攻撃した場合、すべてのスイス人はあらゆる手段を用いて自衛する権利を常に有し、この権利を否定できない。

都市が占領された

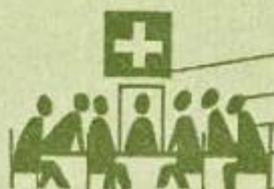


戦いの音が静まる。民間人は隠れ場所から這い出して来る。それでも連絡が付くなら、民間防衛機関から指示を受ける。街は瓦礫と化している。橋は破壊され、多くの通りは瓦礫で塞がれている。

敵の兵士が通りをパトロールしている。道路の合流点のあちこちに敵の戦車が立ちはだかり、威嚇するように砲塔を街路に向けている。敵の兵士は人目に付かない所や地下室に入り込み、街を搜索る。あちこちで、彼らはスイス兵を捕らえ、彼らの前に引き立てる。その後、拡声器が上がり、アナウンスする：私たちの輝かしい軍隊が皆さんの街を占領しました。私たちは友人であり、解放者です。新しい都市司令官の命令に従ってください！敵対行為をしないでください。敵対行動をした場合、容赦なく罰せられます！

数日後、街の瓦礫を片付ける作業が始まる。民間防衛機関はその任務を遂行し続け、いくつかの通りを片付け、生き埋めになった人々を救出した。主要な大通りは、占領軍の工兵部隊によって再び通行可能になる。当分の間、占領軍は川を渡る2つの舟橋を敷設した。敵の戦車は途切れることなく前線に展開される。市外にある病院はまだかなり無傷であり、占領軍の医療部隊に引き継がれている。ここでは、占領軍の負傷者と負傷したスイス人捕虜が治療を受けている。ジュネーブ赤十字条約によると、敵味方の区別はない。病院のごく一部は民間のニーズに任せられている。少しずつ日常が戻りつつある。文民当局のほとんどの要員は、占領軍と対峙して住民の利益を保護するために、その事務所にとどまっている。可能な限り、学校は数人の教師と女性によって再び開校される。一部の店舗は営業を再開している。食糧配給は定期的に割り当てられます。もちろんほんの少しであり。住民は、修理が不十分な家や兵舎に可能な限り滞在し、通りに姿を現わさない。特に女性は通りに出ない。

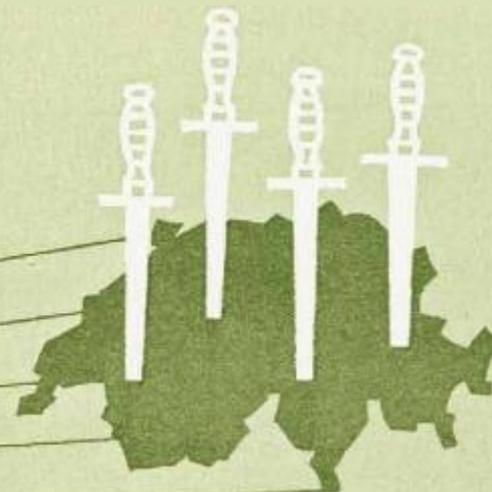
レジスタンス闘争が準備される



我々の国の大部分が占領された後、スイス人は海外のどこかで会合を開き、スイスのレジスタンス運動を設立した。その中には、連邦政府の生き残ったメンバーがいる。捕われの身から逃れた陸軍上級将校、国会議員、党と労働組合の指導者、女性団体の代表者。亡命中、彼らは憲法上の非常事態に基づき、亡命政府を樹立した。

初めて「スイス自由放送局」を聞く

占領地のスイス人！我々の軍隊の大部分は、状況の圧力下で最も大きな損失を出した後、戦闘を断念せざるを得なかった。しかし、わが国は降伏しておらず、今後も降伏することはない。我々の軍隊の一部は、分散して、強固な要塞でまだ戦っている。多くの人が身を隠し、我々の大義のために戦い続けている。家から遠く離れた場所にいる人たちは、自由を求める闘いに巧みに貢献している。スイスレジスタンス政府はあなたの正当な政府である。それは国の解放まで、地下と海外からの闘争を続ける。当分の間、皆さんは状況に服従しなければならない。不注意な行動をしないこと。国際法を遵守すること。



スイス自由放送、リーフレット、その他あらゆる可能な方法で、皆さんの行動とレジスタンス闘争の行動に関する指示を伝える。正当な理由のために戦うこと、そして皆さんの信頼が我々の力を高めることを知っておくこと。日々の生活は続き、戦いは続く！数十万人の兵士と市民の犠牲は無駄ではない。

レジスタンス政府の大統領とレジスタンス軍の最高司令官は、困難な課題に直面している。レジスタンス闘争の計画が作成される。細部に至るまですべてを準備する必要がある。その場その場での行動や無計画な行動は有害である。レジスタンス軍を編成し、訓練する必要がある。その中核は、戦闘をやめていない軍隊の要員によって構成される。スイスはレジスタンス地域に分かれている。責任ある軍事指揮に加えて、それぞれが文民の行政および司法権限を与えられている。当面の間、レジスタンス地域には少数の労働組合の代表たちのみが配置される。彼らには説明書、無線コード、計画書、偽の身分証明書が渡される。彼らは信頼できる人々との接触を確立し、適切なレジスタンス戦闘員とエージェントを選択して訓練できるようにする。

黙って待つ

その後まもなく、ある朝、スイスで数百万枚のチラシが見つかった。チラシは夜にロケットによって投下された。チラシには次のように書かれている：

スイス国民よ！

我々はまだ十分な力を持っておらず、国際情勢がレジスタンスのために積極的に戦うことを許していない。これには長い時間がかかる場合がある。したがって、スローガンは次のとおり。黙って耐え忍ぶ。正しく行動し、敵に報復の口実を与えるだけの挑発を控える。占領国に対する民間人の敵対行為は、国際法で禁止されている。憎悪、虐待、占領当局による正当な措置への抵抗、占領軍や敵に協力しているとスイス人の殺害、産業や輸送施設や供給に対する妨害行為、破壊活動、使用不能にする行為を実行しないこと。これらはすべて、占領国の文民に対する国際法の下で禁止されており、罰せられる。そのような行動が適切な時期に必要な場合、それらはレジスタンス軍のメンバーによって実行される。

今のところ、皆さんの闘争への貢献は、占領勢力に冷たい体である。占領勢力に関与せず、プロパガンダのデモンストレーションか距離をとり、敵との不必要な接触を避けること。特に女性は、占領軍の兵士との遭遇を避けること。家の外で必要なすべての作業は、可能であれば年配の女性が引き継ぐこと。街に出なければならない女性は一人で行かず、子供を連れて行き、目立たない服装をし、外国兵の欲望をかき立てるようなことは避ける。

敵と戯れる者は、今日は軽蔑され、明日は厳しく罰せられる。

敵が我々の土地で、気まずい生活をする時が来ている。占領軍がこのような冷たさに絶えず直面し、優しい視線も同情的な言葉も受けない国では、故郷から遠く離れた占領軍の士気はゆっくりと、しかし確実に浸蝕されていく。それが我々の最初の目標である。

皆さんは占領地で無防備ではない

占領国は、ハーグ陸戦条約およびジュネーブ/赤十字条約の条項を遵守しなければならない。それは皆さんの生命、誉、家族の権利、宗教的信念と習慣、そして財産さえも尊重しなければならない。食糧の供給と病人への看護を保証しなければならない。行政機関をそのままにし、教会や学校に干渉してはならない。

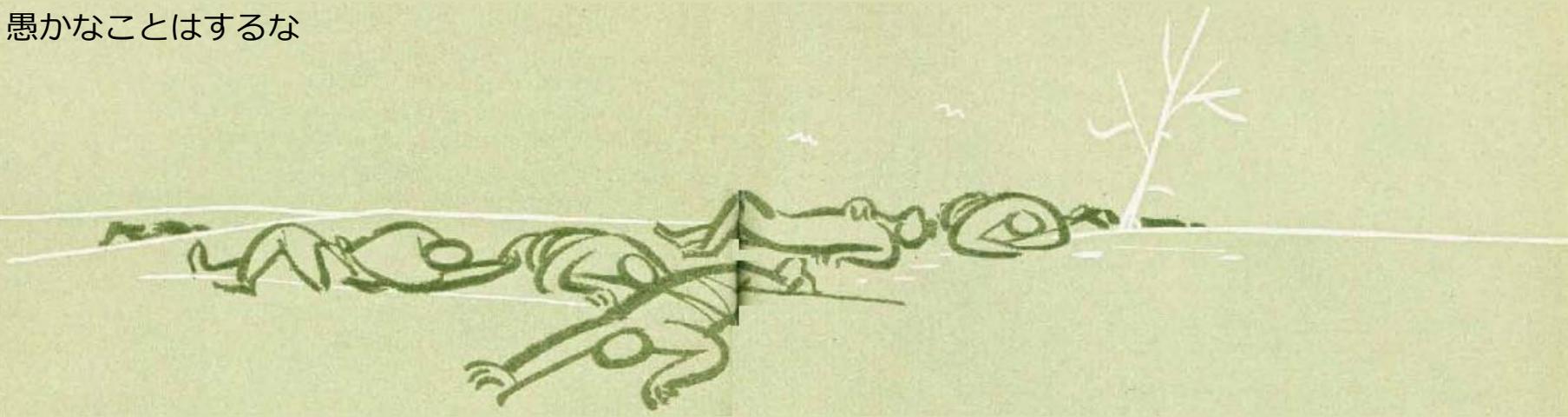
一方、占領国は、戒厳令の下、武器、輸送手段、通信機器、ラジオなどを没収し、税金を課すこともできる。そのような要求に抵抗しないこと。

占領国が国際法の規則に違反している場合、皆さんには彼らの注意を喚起する権利と義務がある。また、保護勢力または赤十字の代表者に支援を求める権利もある。ただし、物理的な抵抗は敵を苛立たせ、皆さんの運命をより困難なものにする。レジスタンス運動の責任者は、占領軍とその機関が犯した犯罪を確実に正確に記録する。レジスタンス組織の司法当局は、すべての占領当局の記録を保持し、報復の日に裁判官の前に提出する。何が正しいかを知ること、皆さんの忍耐力が高まる。

占領国は、次のことをしてはならない。

正当な手続きなしに文民を逮捕し、裁判にかけ、強制送還し、個人的には犯していない罪で誰かを罰する、つまり、家族全員を集団で罰すること
村全体あるいは集団全体へ賦課
人質を取ること
文民を軍事活動や軍務のために募集したり、戦争行為で援護射撃として使用したりすること。
占領国の住民に占領国への忠誠を誓わせること。
占領地の住民に自軍とその防御に関する情報を提供しよう強制すること。
病院をその目的から遠ざけ、医療従事者がその職務を遂行するのを妨げること。
私有財産、貴重品、芸術作品を略奪または没収。
我々の芸術の宝物を運び去ること。

愚かなことはするな



ブーフグラーベンでは、占領軍の酔った兵士が教会に押し入り、教会を冒涇した。彼らは怒鳴ったり遠吠えしたり、絵画や崇拜の対象を壊したり、十字架を撃ったりした。近くに住んでいる男性がいた。彼は怒りに襲われた。彼は銃を手に入れた。彼はそれを干し草の山の下に隠し、犯人を撃った。占領軍の兵士の一人が負傷した。翌日、占領軍の司令官は、準軍組織の保安部隊にブーフグラーベンを行進させた。男性は全員、教会の前に集められ、機関銃で撃たれた。女性と子供が誘拐され、村に火が放たれた。

ブーフグラーベンの占領軍による「報復行動」の報告は、1ヶ月以内に責任あるレジスタンス地域の本部に届いた。この種の3番目の報告である。再び誰かが正気を失い、軽率な行為によって罪のない人々に言葉では言い表せないほどの苦痛を引き起こした。このままではいけない。それは皆さんのレジスタンス闘争の戦い方ではない。不必要に血を流してはいけない。一滴一滴の血は貴重である。敵に流されて無益な行為に走ることを許せば、計画されたレジスタンス闘争の準備も、最大限に危険にさらされてしまう。レジスタンス地域の司令官は、この地域の住民にアピールを書く。その中で司令官は住民に忠告する。冷静を保ち、無謀な行為をしないこと。

レジスタンス闘争は感傷的な興奮の問題ではなく、冷静で巧妙な計画が必要である。

敵の圧力が高まる



闘争が我々から遠ざかり、我々が占領軍の後方になるにつれて、敵の圧力が高まる。占領軍は今、我々に対処する時間がある。現在、占領軍は国際法の下での権限を超えて、意図的に我々をそのイデオロギー体制に組み入れようとしている。

段階的に、カントンとコミューンの行政に占領軍の支持者が浸透していく。占領地には文化委員が任命される。占領軍の言語は学校の教科になり、ネイティブの方言は口語として抑圧され、新しい歴史と地理の本は、幼い頃から外国のイデオロギーに子供たちを慣れさせることを目的としている。新しい青年組織が設立される。

フェスティバル、乗り物、戦車の運転、飛行などの魅力的なパフォーマンスで、敵は若者を引き付け、両親、教会、スイスらしさから遠ざけようとする。

報道機関が並んでいます。

あえて自分の意見を表明したいいくつかの新聞は、経済的手段で抑圧されるか、発禁となった。

紙は配給され、路線に忠実な新聞にのみ割り当てられる。

その一方で、わが国は新しい雑誌、特にイラスト入りのプロパガンダ新聞で溢れかえっている。プロパガンダ映画は、勝利した軍隊の圧倒的な優位性を示す戦争映画を含め、映画館で絶えず上映される。

ラジオとテレビは占領軍の番組を放送するだけである。最終的には占領軍はあえて教会に足を踏み入れるようになった。宗教は明示的に禁止されているわけではないが、その信奉者はいたるところで不利な立場に置かれている。学校での宗教教育は禁止される。



牧師と司祭の礼拝が中止されたため、多くの教区にはもはや牧師がいない。若者と大人は、あらゆる種類のイベントを通じて組織的に礼拝から遠ざけられる。洗礼、聖体拝領、堅信式、教会での結婚式は禁止される。

スイスはまだ自由である

2人の若い作家と1人のジャーナリストが、大規模な見せしめ裁判で占領軍の裁判所の障壁の前に立っている。占領前、彼らは前衛派に属し、ヨーロッパの評判を享受していた。彼らはしばしばスイスの状況について皮肉を込めてコメントしていたため、現在の占領国のイデオロギーに共感したとされている。占領後、占領軍の文化委員会は、2人の作家と著名なジャーナリストをプロパガンダ活動に引きつけようとし、文化委員会で高給の仕事を提供した。占領軍はまた、このようにして、自分たちの国と自分たちの仲間の専門家の運命を軽減できるという論で、2人の作家と著名なジャーナリストを釣ろうとした。

三人は勇気を出して断った。彼らは、古い秩序の下で真実を語ったのと同じように、新しい秩序の下で真実を語るという任務に忠実であり続けた。彼らは国家の安全を危険にさらした罪で有罪となり、長期の懲役刑を言い渡された。

教訓が燃え立たせた。今や誰もが何をすべきかを知っている。占領軍の文化的な誘惑にだまされる人は誰もいない。母親、教師、牧師、作家など、誰もが自分の立場で真実を支持している。子供たちは沈黙を守り、両親、教師、牧師を裏切らないことを学ぶ。いずれにせよ捕まった者は、刑務所と強制収容所に送られる。すべての犠牲は、抵抗の精神を強化する。誰も同意しない。占領された国の住民の何年にもわたる受動的な抵抗は、占領軍の士気を低下させ、解放闘争の準備となる。

解放闘争が始まる



おそらく何年が経過した。解放闘争で攻撃命令が出される。もちろん、そのような攻撃は大きな戦いにはならない。いつの間にか、最初は地下で、攻撃は徐々に増加する。おそらく、占領軍のための世界的な戦争で後退が起こったのだろう。恣意的な力を使ってスイスを抑圧することはもはや不可能である。優秀な部隊が前線に撤退する。

海外で入念に訓練されたレジスタンス戦闘員とエージェントがスイスに潜入している。彼らは、占領国の言語、慣習、作戦、反応に精通しており、味方と敵の武器と通信機器の使用、暗号化、爆発物の取り扱いについて訓練を受けている。

浸透には多くの時間と忍耐が必要である。エージェントは、占領当局への忠誠心によって偽装する。このようにして、レジスタンス戦闘員を鉄道職員、郵便会社、電信会社、警察、さらには占領軍の行政に入れることができた。被占領国の抑圧された人々は、絶対的な規律を維持しなければならない。軽率な行動で敵を苛立たせてはならず、何よりも、敵と協力しているスイス人に対する報復に流されてはならない。結局のところ、誰がレジスタンスに属しているのか、誰も知りえない。

レジスタンスに積極的に参加していない人々の任務は、何よりも沈黙を保ち、見たり聞いたりしたことを明かさないうことである。

大打撃

最初の段階では、おそらく数千人の自由の闘士によるパルチザン的な戦いを繰り広げなければならないだろう。目標は、人員や物資に対する絶え間ない妨害行為や襲撃によって、敵に損害を与え、さらに士気をくじくことである。しかし、特に、敵の後方通信は、橋やその他の建造物を爆破することによって遮断され、スイスから遠く離れている可能性がある前線での敵の作戦が妨げられる。この戦いは非常によく組織化され、綿密に戦わなければならない。武器、爆発物、無線機器、あらゆる種類の物資の秘密の倉庫が全国に設置されており、自動車やボートは襲撃隊が自由に使えるようにしておく必要がある。

闘争に参加しない住民は沈黙する。住民は何も聞いておらず、何も見ていない。戒厳令の下では、占領国に情報を提供する義務はない。

敵に利益をもたらすものはすべて破壊される。敵には休息の余地を与えない。もちろん、戦いは我々にとっても困難である。敵はひどい報復を行いし、懲罰的な遠征で住民を恐怖に陥れようとする。多くのスイス人が銃で撃たれたり、強制収容所に連れて行かれたりする。村は破壊される。しかし、これらの犠牲は今や意味を持つ。敵に対するすべての打撃は我々を自由に近づけるためである。この戦いで命を落とした人々は、祖国と自由のために最前線の兵士のように命を落とした。レジスタンス政府は彼の愛する人たちの面倒を見ることを約束する。国の解放後は公然と、国が占領されている間は遠回しに。

解放軍が根付く



解放闘争は時間の経過とともに拡大すると考えられる。レジスタンス集団は、最初は個別に地下で戦っていたが、力を合わせて、アルプスなどの防御力の高い遠隔地を恒久的な支配下に置いた。おそらく、彼らは食料、武器、弾薬を供給され、さらに段階が進めば、国外からの空輸によってより重い戦闘資材、銃および軽装甲戦闘車両が供給されるだろう。飛行機とヘリコプターも自由に使えるようになる。

現在、解放軍の在庫は常に増加している。占領国への進軍命令は、以前に軍隊に勤務したか、その他の資格を持つ男たちに発令される。エージェントのネットワークは、信頼できる人物のリストを作成した。何千人もの男性がなんとかレジスタンスゾーンに入ることができた。レジスタンス運動、特に諜報機関は、敵の守備隊の弱点を突いて、これらの男たちを密輸送した。レジスタンス地域では、戦闘員に装備が供与され、訓練され、新しい戦闘部隊が編成される。

占領された国では受動的抵抗が激化した。一般市民は、国際法の限界を超えることなく、可能な限り頑固に行動する。もはや住民から何も得られない。誰もが工場でスパナを投げる。工場労働者は貧弱でゆっくりと働く。抵抗はどこにでもあるが、形ある抵抗はどこにもない。

アルプス地域から、解放軍の待ち伏せ部隊が、占領された前線ですます頻繁かつ持続的に活動する。徐々に、占領当局と占領軍に圧力をかけることで、文民に対するある程度の保護を回復できる。

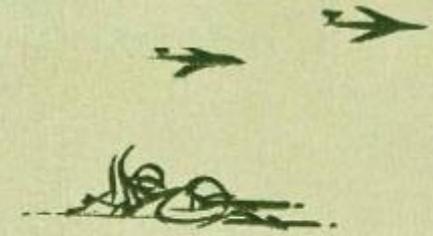
再び戦争



おそらく、解放闘争の最終段階で、大戦争が再び我が国を襲うだろう。再び言いようのない苦しみが我が国民に降りかかるだろう。おそらく、戦争の運命は国外へと展開する。わが国を含むヨーロッパの大部分を占領した侵略的大国を克服した軍隊は、スイスの国境に衝突している。敗北した勢力の部隊はスイスに戻ってきて、反撃のために編成されている。再び我々の町や村は、爆弾やロケット弾の攻撃を受けている。今回は、我々の友人であり、我々を解放しようとする勢力からのものである。おそらく彼らは、アルプス地方のスイスレジスタンス軍が保有する地域に重兵器を積んだ軍隊を進軍させ、敵の背後にある中央高原に押し出すだろう。おそらく新しく編成されたスイス部隊を彼らの側にいるだろう。これらはすべて考えられることである。

再び戦争だ。繰り返すが、文民は困難な日々を経験している。再び、文民は生命を救うために地下室やシェルターなど避難場所を見つけなければならない。占領下でも文民組織として生き残った民間防衛機関は、再びその困難な任務を果たさなければならない。

国土は自由だ！



アルプス地方からの前進の日に、スイスのレジスタンス軍の最高司令官は、チラシヤ自由ラジオ放送局を通じて、次のような方法でスイスの住民にその日の命令を出すかもしれない。

スイス国民よ！

自由の時が来た。解放軍は国外から、そしてアルプスから前進する。数日後に会おう。すべての大きな町で、我々が選んだ責任者たちが戦闘員を募集する。

不法行為に注意すること。現時点で何が適切かを知っているのは、我々が任命した席に者だけである。彼らは、敵が占領した指揮所、逮捕された人々、破壊された倉庫、切断しなされなければならない通信、道路、鉄道線、橋、自軍の前進のために無傷で取り除かなければならない橋とボトルネックを知っている。我々の勝利を復讐行為や国際法に反する行為で汚してはならない。捕らえられ負傷した敵は、国際法の保護を受ける。皆さんが敵の協力者とみなしたスイス人に対して憎悪の行為をしてはならない。彼らの多くは我々の秘密エージェントだった。我々が選んだ責任者たちだけが味方と敵を知っている。容疑者と裏切り者は逮捕され、法廷に引き渡される。

忍耐の価値があった。我々の国は再び自由になった！